

■武井武雄 子供向けの絵を“童画”と命名し、芸術の域にまで高め、おもちゃほか、多岐多彩な分野で作品を残した。

たけいたけお

日清戦争始 1894＝

長野県諏訪郡平野村西堀で、裕福な地主武井慶一郎、さちの一人息子に生まれる。武井家は諏訪藩で御中小姓を代々務め、藩の御用のかたわら、私塾〔無事庵〕を開き地域の子どもの教育に熱心に取り組んだ。父慶一郎も平野村長を務めるなど地域に貢献した人物であった。幼い頃は病弱で、多くの時間を家の中で過ごし絵や俳句に親しみ、空想の中に“妖精ミト”という友達を創り出し、童話の世界で一緒に遊んでいた。この経験は、生涯消えることなく、童画を描く原点になったのではないかとされている。

帝国憲法発布 1899＝ 5歳：「早くも、半紙四つ折、毛筆画に水彩を施した豆本形式の「工挑金」をつくっており、

日比谷公園 1903＝ 9歳：

日露戦争終 1905＝11歳：

韓国反日暴動 1907＝13歳：

伊藤博文暗殺 1909＝16歳：

明治天皇没 1912＝18歳：

大正政変 1913＝19歳：

第一次大戦始 1914＝20歳：

ベルサイユ条約 1919＝25歳：

平野村及井川尋常小学校高等3年修了。『小学校の頃から’絵描きになる’と公言し、長野県立諏訪中学校に入学、友人と、洋画研究を目的に〔椰子の実会〕を結成、水彩画の展覧会も開く。北原白秋の詩集「邪宗門」と、竹久夢二の「春の巻」に衝撃、子供のための絵に興味を抱くようになり、前年の鈴木三重吉による「赤い鳥」や、「金の船(のち金の星)」など、児童雑誌の発刊が続くなか、卒業。翌年まで同校研究科に在籍し、エッチングの基礎を学ぶ。

原敬首相暗殺 1921＝27歳：

中村梅と結婚。『絵雑誌〔子供之友〕その他に子ども向きの絵を描きはじめ、子供向けの絵画が副業的に描かれている状況に疑問を持ち、全力で描いて子供の心を揺さぶることを一生の仕事に決意、生涯で唯一度、絵の売り込みに、児童雑誌を出版する東京社を訪れ、〔日本幼年〕の編集者和田古江に会って運命の出会い、東京社が創刊する、絵を中心にした児童雑誌〔コドモノクニ〕の企画段階から関わり、創刊号のタイトルロゴや表紙絵を担当、斬新さやユニークさが当時の人々に衝撃を与え、その後絵画部門の責任者となる。

水平社結成 1922＝28歳：

関東大震災 1923＝29歳：

護憲三派圧勝 1924＝30歳：

治安維持法 1925＝31歳：

円本時代始 1926＝32歳：

「ベスト博士の夢」(金星堂児童部)、『銀座資生堂で、初の個展〔武井武雄童画展〕を開催、このときに初めて用いた造語“童画”がのちに定着。父慶一郎が死去。蒐集している郷土玩具を収めるための館をつくり、白秋が「螢の塔」と命名してくれる。長編童話「ラムラム王」(叢文閣)出版。RRR(Roi Ram Ram)のサインを使い始める。『武井武雄画畵1,2,3』(丸善)。村山知義ら同志6人と『日本童画家協会』を結成。西條八十とも親交し始める。菊池寛編の「アンデルセン童話集」の挿絵を担当、創案した新作の玩具・小手工芸品「イルフトイス(ILF TOYS)」展を開催(イルフとは、古い(フルイ)の反対で新しいという意味の造語で、全力で描いて子供の心をもちの創造することをめざしていた)するとともに、収集した郷土玩具を伝承木版にした「おもちゃ絵諸国めぐり」を制作、木版画による江戸千代紙、おもちゃ絵を扱う谷中の「伊勢辰」より翌年までにかけて会員に頒布。

海軍軍縮条約 1930＝36歳：

地平社書房版「日本郷土玩具(東の部・西の部)」を出版するに当たって、この玩具に興味を持った、6つ下の、のちに新興写真の先駆者と言われる金丸重嶺が写真を担当、様々に注文したことから、ともに共鳴するようになり、この年から、毎年誕生日に、金丸が肖像写真を撮影するという稀有な関係

満州事変 1931＝37歳：

五一五事件 1932＝38歳：

帝人疑獄事件 1934＝40歳：

芥川直木賞始 1935＝41歳：

この頃より鈴木廣吉(鈴木仁成堂)と組んで絵本、かるたほか多数出版。蒐集した郷土玩具のお面を日本伝承木版にした、「いろは四十八面集」を(伊勢辰)より会員配布。〔コドモノクニ〕の増刊号「武井武雄傑作童画集 第1輯」。朝日新聞に「赤ノッポ青ノッポ」連載(全50回)。『イルフトイス』展に代え、新宿三越で、テーマ別の「創作玩具」を開催、第1回展「動物の展覧会」の際、小型の私刊本「十二支絵本」を制作、「刊本作品」の第1号となる。その美しさから「書物の芸術」「本の宝石」と呼ばれるようになり、“親類”と呼ばれる約300名の会員にのみに実費で頒布されたため、「幻の美書」になった。この頃から、エッチング銅版画を止めて、木版画に力を入れるようになり、恩地孝四郎の知遇を得るとともに、武井武雄刊本作品「版交の会」(のちの「様の会」)版画年賀状交換を始める。

二二六事件 1936＝42歳：

日中戦争始 1937＝43歳：

健保+総動員 1938＝44歳：

第二次大戦始 1939＝45歳：

大政翼賛会 1940＝46歳：

日米開戦 1941＝47歳：

『書窓』第2巻5号で「武井武雄小特集」が組まれる。この年から、郷土菓子を収集記録し始め、母、二男を失う。3年かけて制作した『銅版絵本の名作「地上の祭」(アオイ書房)出版。三男も死去。RRRのサインをやめ、以後、敗戦前後の10年は、生涯最も困難な日々、(新児童文化)第1冊(有光社)に「童画史管見」を発表、日本童画略史の最初の試みとして評価される。日本少年国民文化協会の結成で、日本童画家協会解散。同協会絵画部会幹事長に就任。「書窓製本之輯全」(アオイ書房)出版。蒐集したこけしを日本伝承木版にした、「愛蔵こけし図譜」を、芸術性の高い出版物や趣味人向けの限定本を手掛けていた古書店「吾八」より3年かけて会員配布。

近代の超克 1942＝48歳：

年金+総武装 1944＝50歳：

敗戦 1945＝51歳：

銅版画書窓版画帖十連聚其六「宇宙説」(アオイ書房)出版。恩地孝四郎の推薦で日本版画協会会員となる。空襲記録「気促画帳」を描き始めるが、建物疎開で自宅が壊され、郷里の岡谷に疎開を余儀なくされる。かろうじて残っていたアトリエ等も、空襲のため焼失。作品や郷土玩具など灰燼に帰してしまふ。敗戦後も、子供たちのためという矜持を失わず、日本童画会結成、委員となる。文化団体「双燈社」を起し芸術文化の運動を行う。東京の荏原中延に仮寓。「武井武雄先生江戸表復帰記念の会」開催(のちに私刊本「東京友の会」へと発展)。板橋区南常盤台に新居を構え、一柳庵と称す。

新憲法公布 1946＝52歳：

極東裁判決 1948＝54歳：

三大事件 1949＝55歳：

独立回復 1951＝57歳：

メデー事件 1952＝58歳：

テレビ放送始 1953＝59歳：

自衛隊発足 1954＝60歳：

55年体制始 1955＝61歳：

国連加盟 1956＝62歳：

なべ底不況 1957＝63歳：

インスパンショック 1958＝64歳：

美智子妃 1959＝65歳：

安保闘争 1960＝66歳：

小学館児童文化賞に絵画賞が設けられ、その選考委員を務める。この頃より私刊本制作の過程をまとめた「豆本ひとりごと」(のちの「刊本作品ひとりごと」)が発行される。岩波の子ども本10「九月姫とウグイス」の挿絵、フレーベル館「観察絵本キンダーブック」の編集顧問になり、日本美術家連盟会員となる。私刊豆本友の会(のちの刊本作品友の会)の機関紙「親類通信」を発刊(以降年2回発刊)。この年まで22年間に収集した郷土菓子169点について、私家版「日本郷土菓子図譜3巻」にまとめている。『児童文化に貢献した功績により紫綬褒章。受章記念と刊本作品No. 40開頒を兼ね、第1回全国友の会を開催、「武井武雄賛歌」が発表される。(私刊豆本)の呼称を「刊本作品」と改める。造本美術の随筆集「本とその周辺」(中央公論社)出版。

タイタイ病始 1961＝67歳：

全国総合計画 1962＝68歳：

日本童画会解散。筒井敬介著「動物はみんな先生」の装幀、挿絵。(戦前の協会とは異なる)日本童画協会を設立して、名実ともに童画界の重鎮となり、以後没する前年まで毎年、日本橋白木屋で、タブロー画による童画展を開催。

東京リボルブ 1964＝70歳：

いざなぎ景気 1966＝72歳：

美濃部都知事 1967＝73歳：

霞ヶ関ビル 1968＝74歳：

石油ショック 1973＝79歳：

角栄金脈辞任 1974＝80歳：

クアランゴール事件 1975＝81歳：

結成された美術著作権連合の理事長に就任。三島由紀夫著「サーカス」の装幀、挿絵。「武井武雄童画集」(盛光社)。勲四等旭日小綬章受章。『ソ連文化団体の招請により「児童文化訪ソ団」を結成し、その団長としてソビエト各地を歴訪する。『戦中気促画帳』『戦後気促画帳』(筑摩書房)。「ばれん」(日本愛書会)出版。「武井武雄作品集」全3巻(筑摩書房)刊行。『童画の代表作をのせた「武井武雄作品集1(童画)」が、東ドイツのライプチヒにて“世界で最も美しい本”としてグランプリを受賞。国際アンデルセン賞国内選考委員を務める(15～17回)。この間も、「宮沢賢治童話集1」「小川未明童話全集」の挿絵などを描いているが、心筋梗塞のため、没した。

中曽根内閣 1982＝88歳：

ドイツユーランド 1983＝89歳：

「武井武雄版画小品集」(集英社)。『100回を重ねた「東京友の会」を最後に、刊本139作品を完成して、生前から親交のあった飯沢匡は、'童画家などと要約できない、類稀なアーティストで興味が赴くところ何でも手がけ、それぞれを完璧にこなす、まさに天才であった'と言っている。岡谷市西堀の生家は、元禄時代の建築ともいわれ、長野県諏訪地方では現存する一番古い民家ではないかといわれていた。

Wikipedia「武井武雄」、イルフ童画館「武井武雄 イルフの王様」、鳥海早喜「新興写真の先駆者 金丸重嶺」、